

第9回学習会「がん医療」の内容報告

2026.01.24 文責:中川

1月23日(金)に開催した「がん医療学習会」の内容をご報告します。当日は、益田赤十字病院の緩和ケア認定看護師・土佐めぐみ氏、医療ソーシャルワーカー・渋谷功志氏を講師に迎え、「益田のがん医療の現状と課題」についてお話しいただきました。別掲の配布資料と併せてご覧ください。

1. 益田赤十字病院の概要と患者動向

- **中核病院としての役割:** 益田圏域の救急搬送の8割を受け入れています。病床数284床、病床利用率は84.7%と非常に高く、85%を超えると入院の受け入れが困難になるとされているほど多忙な稼働状況にあります。
- **診療実績:** 平均在院日数は12.2日、外来患者数は1日600人を超えています。

2. がん治療の現状

- **地域完結型医療:** 2024年のデータでは患者の約8割が圏域住民です。胃・大腸・乳・膀胱がんの術式の多くを当院で実施しています。当院で対応困難な治療については、大学病院等と緊密に連携しています。
- **診療体制の変化:** 肺がんについては、2024年より呼吸器内科の常勤医が不在となりましたが、大学からの非常勤医派遣により、可能な限りの治療を継続しています。
- **高齢化への対応:** 患者の9割以上が70代以上であり、「住み慣れた地域での治療継続」を希望する声が非常に多いのが特徴です。

3. がん相談支援センターの活用

- **窓口の設置:** 県指定のがん診療連携推進病院として、専門の相談員(社会福祉士・看護師)が、告知後の不安や経済的問題、痛みの管理など多岐にわたる相談に応じています。(電話:0856-22-1480)
- **課題:** 患者の半数近くがこの窓口の存在を知らない状況にあります。一人で抱え込まず、まずは相談していただくことが重要です。

4. 緩和ケアと包括的サポート

- **緩和ケアの定義:** 体の痛みだけでなく、心の不安や「生きる意味」への問いなど、多面的な苦痛を和らげ、生活の質を支える取り組みです。
- **多職種連携:** 医師・薬剤師・栄養士・MSW・リハビリ職・心理士・看護師がチームで包括的なケアを提供しています。

5. 在宅療養支援の現状

- **制度の活用:** 40歳以上の末期がん患者の方は、介護保険制度(第2号被保険者)を利用した療養環境の整備が可能です。
- **在宅への不安解消:** 調査では「在宅療養を希望するが実現は難しい」という回答が4割近くに上りますが、24時間対応の訪問看護ステーション(市内5箇所)との連携により、独居や点滴継続中の方でも在宅療養は可能です。

6. 経済的支援と仕事の両立

- **治療費の相談:** 高額療養費制度に加え、傷病手当金、障害年金などの公的支援があります。支払いの不安で治療を諦めず、まずは窓口へご相談ください。
- **就労支援:** 「仕事ができないから辞める」前に、島根労働局の両立支援制度や産業保健総合支援センター等の専門機関を活用することが大切です。

7. アピアランスケア(外見の変化へのケア)

- **ウィッグの補助:** 抗がん剤による脱毛等に対し、島根県ではウィッグや補整下着の購入補助を行っています。
- **現場の課題:** 参加者(サロン代表)より「高価な天然毛ウィッグ等に対し、上限2万円の補助では不十分」との指摘がありました。これに対し、がんサロンではウィッグのリサイクル・メンテナンスによる無償提供などの補完的な活動も行われています。

8. がん患者・家族支援と情報収集

- **がんサロン:** 益田市内には「ほっとサロンますだ」「すずらんの会」「よつばサロン益田」の3つがあり、患者同士が体験を共有できる場となっています。
- **がんピアサポーター:** 治療経験者が同じ立場の患者や家族を個別にサポートする制度です。
- **情報ツール:** 島根県 HP「島根のがん対策」や、詳細な情報を網羅した「島根のがんハンドブック」をご活用ください。

9. 人生会議(ACP)について

- 最期をどうするかという話だけでなく、元気なうちから「自分はどう生きたいか」を家族や身近な人と話し合っておくことを推奨しています。
-

<質疑応答・意見交換>

Q: 医療連携体制の現状について(益田医師会病院より) 配布資料の体制図には医師会病院も「専門的治療・緩和ケア」の機関として記載されているが、実際には専門医の不在等により、現在は専門的な緩和ケアや治療の継続が非常に厳しい状況にある。この厳しい現実を共有したい。

A: 貴重な指摘に感謝します。県東部で手術を受け、益田で療養するという流れを目指していますが、実際には圏域内の受け皿体制がまだ不十分であるという課題を再認識しました。

Q: 相談窓口へ確実にたどり着くには?

A: 益田赤十字病院に通院中の方は、診察時に医師や看護師へ「相談員と話したい」とお伝えください。また、病院 HP の特設サイトや、各がんサロン経由でも専門の相談員に繋がることができます。当院の相談員も兼務体制という制約はありますが、まずはアクセスの第一歩として活用してください。